

令和7年度 失語症者向け意思疎通支援者養成講習会受講申込書

標記講習会の募集要領に基づき、受講を申し込みます。

締切 令和7年3月28日 23:59

郵送の場合 3月21日(当日消印有効)

		記入日	令和 7 年 3 月 8 日
ふりがな	とうきょう いしこ	生年月日	昭和 平成 ○年 △月 □日(×歳)
氏名	東京 意思子	職業	会社員
住所	〒123-4567 東京 都景 ○○ 区市町村 ××町△丁目○-○ △△マンション101号		
電話番号	03-1234-5678	E-mail	is●hi●.tokyo@ho●mail.co.jp
FAX	同上		
勤務先(学生の場合は学校名)	株式会社 ○○○○		
勤務先住所(学校住所)	〒321-9876 東京都△△区××町○丁目○-○		
修了後 活動可能な曜日・時間帯	<input checked="" type="checkbox"/> 平日昼間 <input checked="" type="checkbox"/> 平日夕方 <input type="checkbox"/> 土日昼間 <input type="checkbox"/> 土日夕方 <input type="checkbox"/> 不定期 <input type="checkbox"/> その他()		
1. 必修基礎コースを受講して学んだこと(200字程度)			
講義や実習を通して、失語症の方への話し方や、話すときの注意点を学びました。			
今までは、失語症の方が私に上手く伝えられないとき、どのように聞いたらよいのかわからず、たくさん言葉で質問してしまい、失語症の方が話すことを諦めてしまいました。			
また、私が失語症の方に伝える際にも、上手く伝わらないと、苦笑いで「いいや」と言われることがありました。			
失語症の方と話すときなどは、文字の使い方や絵・図など 言葉以外の本人が望むコミュニケーション方法を一緒に考え、探し出すことの重要性を学びました。			
2. 応用コースの受講志望動機(200字程度)			
実習先のサロンに行った際に、必修基礎コースで学んだことを活かして失語症の方とコミュニケーションをとったところ、上手く伝え合うことができました。その時、失語症の方が喜んでる姿を見て、私も凄く嬉しい気持ちになりました。			
しかし、失語症の方の障害程度はさまざまであり生活環境も異なるため、失語症のある方が日常生活で困る場面が多く、ニーズも多様化していることを実感しました。			
このため、必修基礎コースで得た知識や実習の経験などを基に、応用コースですらに経験を積み、失語症のある方の多様なニーズに応え、一緒に伝え合える喜びを共有したいと思い、志望しました。			